



「私は大丈夫。結構いける！」

先日は、にじ組さんの生活発表会を無事に終えることができました。乳児園の保護者の方にもご協力いただき、たくさんの職員で子どもたちの成長した姿を見守ることができましたこと感謝申し上げます。

さまざまな感染症が流行する時期で心配していましたが、子どもたちも手洗いや消毒を頑張り、その甲斐あってかみんなが元気に参加できたことが何よりでした。

生活発表会が終わった週明けのおたより帳には、保護者の方からたくさんのメッセージが届いていました。

年少あか組さんの保護者の方の多くは、みんなと一緒にステージに立って歌をうたったり、遊戯や劇をしている姿にただただ感動したことが伝わってくる内容でした。

この世に生まれてきてまだ3年しかたっていない子どもたちが、大勢の方の前で友だちと一緒に舞台上に立ち、楽しそうに、しかも、堂々としていたことが凄いです。

もう、可愛くてかわいくてたまりませんでした。

年中最い組さんの保護者の方からは、「昨年と比べて、発表会に対する思いが違っていた。当日の表情や、やる気に、成長した姿が見えた。」

「さい組だから、かっこよくする。と宣言通りの姿に成長を感じた。」

「ドキドキして眠れない、と言ってた。」
「大人はいいよね、見てるだけで。私たちがはいつぱいやることあるもん。と言われて大笑いしてしまいました。」など、お家でのエピソードが添えてあり、それぞれの子どもたちが、昨年よりも「やる気」で臨んだことがよくわかりました。

年長しる組さんの保護者の方からは、「わが子の成長はもちろん、他のお友だちみんなの成長も感じることができて、涙があふれて大変でした。」

「他の子の成長も、わが子のように愛しい気持ちでした。」などのことがたくさん書いてあって、小さい時から共に育ち合ってきた姿を重ねながら、わが子のことだけでなくみんなの成長を感慨深く見てくださったことが会場の一体感を生んでいたのだと感じています。

保育園というところは、子どもだけでなく、親同士も自然と繋がる場所です、優しさと思いやりがあふれているなど嬉しくなりました。

発表会が終わった翌週の月曜日。年長しる組さんに、「いつぱい抱っこしてもらったでしょ？」と尋ねると、照れながらも、「お母さん、抱っこしてくれなかった。もう、重たいいけえ。」と教えてくれましたが、とっても嬉しそうな顔だったので、いつぱい褒めてもらったんだということがわかりました。

「なんかさあ、涙がでてきたんよ。ふいてもふいても涙がでてきたんよ。」と、合奏が終わって、みんなで終わりの言葉を言った後、そっと涙を拭いていたことを教えてくれたしる組さんもいました。達成感とホッとした気持ちが入り混じったのかな。

みんなと一緒に頑張った保育園生活最後の発表会ですから、涙があふれる気持ち、なんだかわかります。

それぞれのクラスで子どもたち自身が、遊戯にするか、劇にするか、何の役になりたいかなどを選びました。特にしる組さんは、合奏の楽器を選ぶ時も、大太鼓や小太鼓、カスタネットなどを鳴らして試しながら、自分で好きなものを選んでさうです。

子どもの思いを尊重しながら、セリフやポーズはみんなで考えた。そして、決めたことは最後まで友だちと心を一つに合わせながらやり通したのです。

当日を含め、練習の時からどの子も楽しんで、友だちと一緒にやってきたことをいつも以上に舞台の上で表現してくれました。昨年よりも確実に、身体も心も大きくなっている姿を見てみると、感動して、これから先の子どもたちの成長が楽しみでたまらなくなりました。発表会という行事を通じて、大好きな人に褒めてもらうことで「自分はすごい、結構できた」という自己肯定感に繋がっています。

当園理事長がいつも、「生まれてからの乳幼児期の5年間で、人生を決める大切な時」と言っています。にじ組さんの、のびのびとした姿の土台は、赤ちゃんの時から抱っこしてほしいときにしっかりと抱っこしてもらい、「うんうんそうだね。」と話を聞いてもらう、日々の丁寧な関わりの中で培われていたのです。

自分には愛されているという、大人への信頼感や安心感がやっばり、さまざまなものに主体的に関わっていく力となるのですね。

にじ組さんたちの姿から、ますます赤ちゃんの時から大人の関りが大切なのだと感じています。そんな子どもたちとこれからも、「なんだろう」「やってみよう」の驚きや感動がいつぱいの退屈させない環境の中で、子どものそばで一緒に笑ったり、一緒に考えていく、そんな毎日大切にしていきたいと思えます。園長



にじいろプロジェクト2

しろぐみさんの劇あそびで使う背景づくりを、らいおん組さんと一緒に行いました。らいおん組さんも大好きな絵の具あそびをしろぐみさんと一緒にできて大喜びです。



自分たちで使う小道具は自分たちで考えて作ります。自分で作ったから一番大切だし、一番かっこいい！壊れたら何回も補修をし、使っていました。



発表会の練習が始まるときぐみ、しろぐみさんはいろいろなお部屋で、保育者を囲んでの話し合いが繰り返行われていました。時には意見がぶつかることもありましたが、それも大切な経験です。



日頃から、「主体的で対話的な学び」を意識したあそびに取り組んでいますが、それは普段のあそびだけでなく、発表会などの行事の時でも同じです。特に今回の発表会に向けての子どもたちのやる気に満ちた生きいきとした姿を見ると、4月からそのような経験を繰り返すことで、主体的に取り組む楽しさをしっかりと感じる事ができていると感じます。自分たちで考えるから楽しいし、失敗しても何度も挑戦してみようと思える、そのような力をこれからもあそびの中で育んでいきたいと思えます。 幼稚園主任